

ふれあいのまちづくり

ゆうやけの里

第 61 号

令和8年3月31日

発行：恩方地区住民協議会広報部（公財）八王子市学園都市文化ふれあい財団
事務局：恩方市民センター内 八王子市西寺方町260-4 ☎042-652-3333

恩方市民センター30周年記念式典並びに第28回センター祭り開催

住民協事務局長 白井克尚

本年は恩方市民センター開設30周年という大きな節目の年となり、令和7年10月25日・26日・11月9日の3日間、これまでにない3日間開催となりました。にわたって開催いたしました。

したが、あいにくの雨天により一部屋外イベントが中止となるなど、プログラムの変更を余儀なくされました。それでも多くの皆様にご来場いただき、楽しんでいただけたことになりました。

25日は、恩方市民センター並びに恩方地区住民協議会による開設30周年記念式典と、地域の皆様が日頃より制作に励まれている作品を展示する文化祭を開催いたしました。

翌26日は、雨天のため屋外模擬店は中止となりましたが、体育室では保育園児から高校生までが出演し、元気あふれる素晴らしい舞台発表が行われる福祉イベントを開催いたしました。

そして11月9日には、毎年子どもたちが楽しみにしている「子どもステイ」と、毎月温かく美味しい食事を提供してくださっているオンガタ食堂が初めてのコラボ企画を実施し、多くの親子連れで賑わいました。

30周年記念式典には、初宿市長をはじめ、多くの来賓の皆様にご臨席を賜りました。

これらの地域の皆様、各種団体、行政関係者の皆様からいただいたご支援・ご協力・ご理解の賜物であり、心より感謝申し上げます。

また、長年にわたり地域活動を支えてこられた諸先輩方に敬意と感謝をお伝えする機会となりました。

この10年を振り返りますと、令和元年の台風被害の際には、恩方市民センターが初めて避難所として開設されました。

さらに令和2年度には大規模改修工事が行われ、各設備のリニューアルとともに体育室へ空調設備が導入されました。

近年の猛暑対策として利用者の皆様へ安全かつ快適に利用できる環境を整い、避難所としての機能向上にもつながる重要な設備が備わった10年でありました。

文化祭では、出展数はやや減少傾向にあるものの、一つひとつの作品はどれも素晴らしい、来場者の皆様からも多くの感嘆の声が寄せられました。

福祉イベントでの舞台発表も、限られた時間の中で完成度の高いパフォーマンスが披露され、観覧者を大いに楽しませていただきました。

館内では、コーヒーカーナーでの交流、永寿会による血管年齢測定などの健康相談、カレーコーナーでの飲食など、終日にぎわいを見せておりました。3日目は日程の都合上少し時間が空きました。

ましたが、はちビバの共催による「子どもステイ」とNPO法人恩方キッズ主催のオンガタ食堂によるコラボ開催となり、例年以上に多くの子どもたちがさまざまな職業体験を楽しみました。なかには「恩方キッズニア」と呼ぶ子どももいるほど、地域ならではの魅力ある取り組みとなりました。

本年は例年とは異なる開催形態となりましたが、準備から当日の運営まで、住民協議会役員・委員をはじめ多くのボランティアスタッフの皆様に支えられ、大きな事故もなく無事に終えることができました。

あらためまして関係各団体の皆様へ心より御礼申し上げます。

今後も住民協議会は、地域づくりとコミュニケーションの活性化に向けた活動を継続してまいります。

皆様には引き続きご支援・ご協力を賜り、恩方地域のさらなる文化向上と発展に向けて、役員・委員一同力を尽くしてまいります。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



里山体験教室

「クラフトテープで籠を編む」

11月15日、ゆうやけの里では「里山体験教室」が開催され、23名（担当委員8名を含む）が参加しました。今年のテーマは、クラフトテープで籠を編む。

講師には小津クラブの富永さんを迎え、6日間の技法を用いた籠づくりに挑戦しました。

クラフトテープは扱いやすく、初心者でも形を作りやすい素材で、参加者の皆さんも興味津々の様子でした。開催にあたり、委員は事前に2回集まり、レクチャー会と材料準備会を実施しました。

会場「小津倶楽部おもむろ」での事前作業は和やかな雰囲気、委員同士が協力しながら準備を進める中で交流も深まり、当日を迎える良い機会となりました。

当日は、富永さんの丁寧な説明を受けながら、参加者がクラフトテープを一本一本丁寧に編み込んでいきました。最初はテープの扱いに戸惑う姿も見られましたが、次第にコツをつかむと手元が安定し、籠の形が見えてくるにつれて笑顔が増えていきました。事前にレクチャーを受けていた委員もサポートに入り、質問に答えたり手を補助したりと活躍。結果として、参加者の約8割が完成に近い状態で仕上げることができました。



作品を手にした参加者からは「思ったより本格的にできて嬉しい」「家でも作ってみたい」といった声が聞かれ、満足度の高い教室となりました。クラフトテープならではの扱いやすさと楽しさを味わいながら、集中して手を動かす豊かな時間を共有できた一日でした。

その他の情報

・市民センターの音楽室に防音のカーテンが設置されました。

まだ詳細な効果の程は検証できていませんが、近隣の皆様への対応も含めて今後も快適に利用していただけるよう努めてまいります。

・センター駐車場入り口のスロープが高のひくい車や安全センサー付き車両ではご不便をおかけしていましたが、スムーズな出入りが可能となりました。火の使用が制限されます。

令和8年1月から林野火災多発期（1月から5月）に林野火災警報が発令される場合があります。

発令されると焚火やかまど、キャンプファイヤーなどの屋外での裸火の使用が制限されます。

この恩方地域では「どんと焼き」も行われますが、これも対象となります。詳しくは「東京消防庁」のHPをご確認ください。

東京消防庁HP
トップ>個人の方へ>火災予防>
林野火災の危険性！空気が乾燥する季節に警戒しよう

恩方の民話・昔話おしえてください

恩方第一小学校の玄関に飾ってある卒業記念品のレリーフをご覧になった方は、いったい何をしていますか。

「蛇山」「天狗の話」「長吉の話」と興味を引くタイトルが書いてあるのですが、お話自体、どんなお話か知らないと思います。

後世に伝えるには、今聞かないと伝わらなくなってしまうかもしれません。そこで、この話を、レリーフの飾りである恩方第一小学校の現校長佐藤先生に話をし、「八王子市西武地域 恩方の民話」「八王子のむかし話」「語らう八王子のむかし話」。

恩一小的の100周年記念誌と140周年記念誌を持ってきてくださり、このなかにも数編載っているから参考にしてくださいとお貸しいただきました。

まだまだ、ほかにも恩方の昔話、民話があると思います。教えていただける方は、是非、お話を聞かせてください。

今後、ゆうやけの里に抜粋引用させていただき掲載させていただきます。

事務局長 白井、事務局次長 大須賀、広報部長 望月までお願いします。



「恩方ふれあいフェスを開催して」
住民協青少年育成部 小山知子
青少年育成部は青少年対策恩方地区委員会「青少年」と連携し、青少年育成に関わる様々な活動を行っています。昨年12月7日には小田野中央公園にて「恩方ふれあいフェス」を開催しました。

当日は天候にも恵まれ、約350人の方々に参加していただきました。夕やけスポーツクラブ担当のグラウンドゴルフやボッチャ、シニアクラブ担当のスポーツ輪投げ、ストラックアウト、大縄跳び、まちづくりの会ワークショップで作成の樹名板つけをしたウォークラリー、そして今回は恩方PTA発案のベトボトルを使ったボーリングや竹ボックリも初めて加わり楽しい時間を過ごしました。

ここ数年は子供だけでなく、地域の大人や他地域からの参加者も増える傾向にあり、文字通り「地域のふれあいの場」として定着してきたように感じます。

ゲームが終わったあとの昼食も楽しみの一つです。お餅や豚汁、まちづくりの会提供のウインナーもふるまわれました。

お餅つきはコロナ禍以来数年ぶりの復活で、小津クラブの協力をいただき子供たちもお餅つきに加わるなど、にぎやかな声が響いていました。大きな行事にはたくさんのスタッフ



落語鑑賞会
12月13日に恩方市民センターにて恒例の「落語鑑賞会」が開催され、41名（担当委員6名・演者3名を含む）が参加しました。

昨年の53名よりやや少ない人数ではありましたが、会場には座椅子とパイプ椅子を合わせて50席を準備し、ゆったりと落語を楽しめる環境を整えました。

今年は演者3名のうち1名が女性という珍しい構成で、三者三様の個性が光る高座が続ぎ、会場は終始温かな笑いに包まれました。

最初に登場したのは全生さん。落着いた語り口でしつとりと聞かせる演目を披露し、観客を一気に落語の世界へ引き込みました。

続いて高座に上がったのは女性落語家の遊若さん。力強くテンポの良い語りで会場を沸かせ、明るく勢いのある話芸に大きな笑いが広がりました。

そして最後のとりを務めた百園さんは、名作「死神」を熱演。緩急のある語りと表情豊かな演技で物語の世界を鮮やかに描き出し、観客からは大きな拍手が送られました。

参加者からは「今年も面白かった」「来年も楽しみ」といった声が寄せられ、地域の皆さんにとって年末の楽しみとして定着していることが感じられました。落語の持つ話芸の奥深さと、



演者それぞれの個性が織りなす豊かな時間を共有できた、充実した鑑賞会となりました。

